

## 教育講演

## 「質的研究の方法論について」

講師 大阪大学大学院 医・保・公衆衛生看護学教室  
教授 岡本 玲子先生



## 1. 研究の問いと研究デザイン

研究デザインの選び方：「研究の問い（リサーチクエスチョン）」に合わせた研究デザインを選ぶ。測定可能な現象（BMIや摂取カロリーなど）には量的な研究を選択する。一方、「変化が前提のもの」、「意味や意義を問うもの」、「概念・構造が明らかでないもの」、「初めての経験であり主観的解釈から始めるしかないもの」のように測定不可能な現象を追求する場合には質的な研究を用いる。

質的研究の問い：自分であればどんな研究がしたいかを考えてみるとよい。

- ・ 具体的な状況や過程はどうであるのか？
- ・ 外見的に観察・測定可能な事象ではなくその内側の意義や気持ちはどうであるのか？
- ・ 研究対象とする事象にはどのような問題が潜んでいるか？
- ・ 取り上げる問題には、どのような要素や要因が含まれているのか？
- ・ 取り上げる要素・要因間にどういう仕組みや関わり合いがあるのか？

## 2. 質的研究と量的研究の違い

質的研究と量的研究は車の両輪のようなものであり、両方必要で使い分けることが重要。

量的研究では、研究計画書作成段階で、対象者・データ収集方法・分析方法などすべて完全に決定されるが、質的研究は研究計画書作成段階では綿密に決定することはできない。また、量的研究では質問紙法・構造化面接法・測定用具の使用・無作為対照実験などでデータを収集するが、質的研究では非構造化面接法・半構造化面接法・参加観察・記録物・写真・ビデオなどを用いて収集する。質問紙調査（量的研究）の場合、研究者側の枠組みの中で選択肢をあらかじめ設定するが、質的研究の場合は研究者側の枠組みを強要しないで表現できるため、ニュアンスまで捉えることができる。

データの分析については、量的研究では統計学的分析を用いるが、質的研究では意味解釈や内容分析（コード化、カテゴリ化）などによって行う。量的研究は、結果の一般化や検証をするために行うが、質的研究では妥当な発見・解釈・記述を目的とする。研究の概念枠組みや概念モデルを指標にして分析をすることもある（例えば、改訂ヘルスプロモーションモデルを指標にして減量に成功した人の要因を分析するなど）。

## 3. 質的研究の概要

- 主な質的研究方法には以下のものがある。
- ・ 事例研究（ケース・スタディ）…事例の深い分析の開発
  - ・ エスノグラフィー…文化集団の記述と解釈

- ・ 現象学的研究…現象についての経験の本質の理解
- ・ グラウンデッド・セオリー…データに基づく理論の開発、理論開発を導く概念の生成
- ・ 質的記述的方法…現象の記述

質的研究の特徴：以下に示す。

1. 仮説検証を目的としない
2. 実験的研究状況を設定しない
3. インタビューや観察から言語データを作成する
4. 主に言語データを分析しながら理論化する
5. データ以外の得られる資料も総合して検討する
6. 研究者の主観的解釈を積極的に活用する
7. 研究対象の有する具体性や個別性や多様性を通して一般性や普遍性を追求する
8. 心理・社会・文化的な文脈を考慮してデータを分析する
9. そうして現象に内在・潜在する意味を見出す

質的研究のデータ採取の方法：①観察、②面接、③フォーカスグループ/フォーカスグループディスカッション、④サンプリングによって行う。サンプリングは、よく知っている人々、十分に情報を提供してくれる人々、はっきりとしゃべってくれる人々、思慮深い人々が適している。サンプルサイズは、情報の「飽和（参加者を追加しても新しい情報は出てこない状態）」が成し遂げられた時が適切な数である。

質的研究のデータ分析の方法：いくつかあるが、概ね以下のような手順を経る。

1. 言語データを丹念に読み込む⇒研究対象に対する経験や研究的知見を背景に
2. コード化：テンプレートコーディング（選定・標準化されたコード群から付す）、生成的コーディング/フリーコーディング（探索的に自由に付す）がある。
3. 理論的コード化：グラウンデッド・セオリーにおける手続き
4. 質的データ分析：付したコードを手掛かりにしてデータを変換、縮約して表示し、データに潜在する意味を見出す⇒質的マトリクス、意味・因果ネットワークなどの手法がある。

質的研究の理論記述の方法：研究で得るべき知見・理論は、①記述的（どうなっているのか）、②予測的（どうなるのか）、③処方的（どうしたらいいのか）の3種類あるが、優れた処方理論は優れた記述的理論があってこそ。よってまず理論的記述が基本と考えること。

## 4. 質的研究の実際

記述データを内容分析、現象的分析、質的記述的分析についての演習を行った。

（文責 研教 森 久栄）